

吉 田 三 郎

1990年は東西ドイツの統合やイラクのクウェート侵攻、さらにソ連をはじめ東欧社会主義国の改革などの政治問題が話題をさらったが、アジアではフィリピンで多少のゴタゴタがあった以外、特別な事変はなかった。ひるがえって日本では政治家の株売買に絡む巨額脱税問題が年末の報道機関を賑わしたが、リクルート事件さえ未だけじめがつけられていない現状にはいささか情けなささを感じている。

一方、環境問題では大気汚染、水質汚濁、騒音、悪臭、土壌汚染、地盤沈下、廃棄物など、依然として解決されなければならない問題が多い。また「交通戦争」もさることながら「ゴミ戦争」も東北地方にとっては新しくまた由々しい問題となって来た。

我々各種ボーリングや地回り防止工事にたずさわる者にとって水質汚濁や地盤沈下問題は殊の外身近なもので、これらの問題解決で生計を助けるのも「水商売？」たるゆえんなのである。

日本は割合水資源に恵まれており、昔から「湯水のように使う」とか「すべて水に流して」などの例えのように水の無駄使いや汚れ物を川に捨てることにあまり神経を遣わなかったのではないだろうか。山形名物「芋煮会」では川の水を使っていたが、最近では川の水も次第に汚れて来たので、山形市の馬見ヶ崎川原には水道の施設さえできています。「山紫水明」といわれた日本の

自然、いや東北の自然も、ブナ林の皆伐が示すように山は荒され、水は汚染されて来たので「山死水迷」とさえ言う人がいる。もちろん、地下水も少しづつ汚染されて来た。

1990年12月17日、環境庁が発表したところによると、地下水汚染の有害物質13種類について全国の3分の1の市町村の3,390ヶ所の井戸を調べたところ、発がん性の疑われるトリクロロエチレン（TCE）が基準値の0.03ppmを越えたのは福島県内で8ヶ所が最高だった。また、テトラクロロエチレン（PCE）の0.01ppmを超えたのもやはり福島県の16ヶ所が最高だったという。さらに、PCE濃度の最高値は宮城県の大崎市とすることで、地下水の汚染はついに東北地方にも及んできたのである。上記の様な有害物質がどこから排出されるにせよ、下水道や川に流す前に処理が十分に行われなければならない。地下水は水温が年中ほぼ一定で、水質も良く、しかもタダということもあって極めて大事な地下資源であり、大事にしなければならない。

「人口爆発」や「巨大技術」がかえって環境を破壊しているとすればそれは皮肉なことであるし、人類は自らを絶滅に追いやることになるであろう。我々は命とたのむ水を大切に、美しい惑星地球を永く子孫にまで残したいものである。

(高田さく井工業㈱)